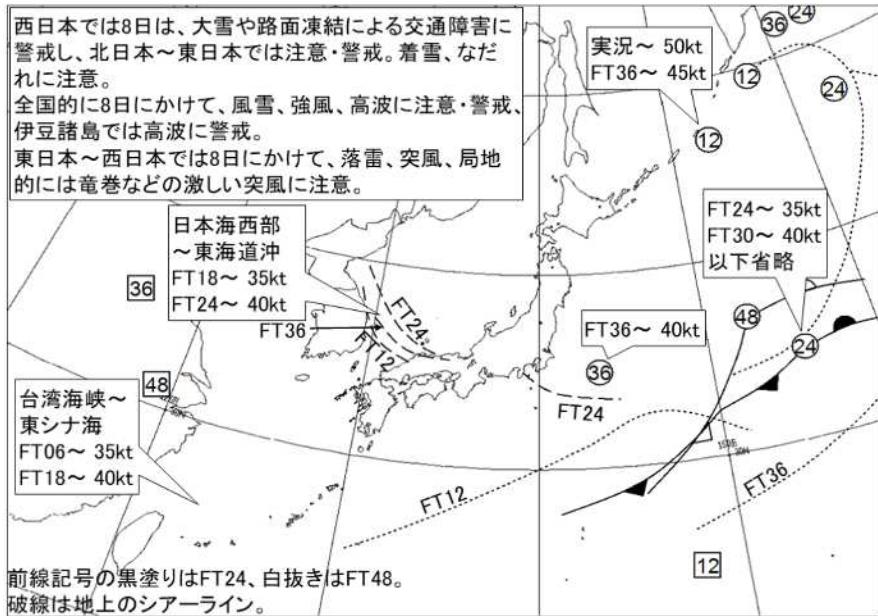


# 短期予報解説資料 2026年2月7日03時40分発表

気象庁

## 1. 実況上の着目点

- ① オホーツク海と千島近海には発達した低気圧があって、北海道地方では雪を伴った非常に強い風の吹いている所がある。
- ② 500hPa 5700m付近の強風軸に対応する前線が南西諸島～日本の東にのびている。
- ③ 大陸の高気圧と①の低気圧や②の前線との間で気圧の傾きが大きくなっている、北日本～南西諸島では強い風が吹いて、波が高くしきている所がある。
- ④ 中国東北区の 500hPa 5100m付近には -45°C以下の寒気を伴うトラフがあつて南東進。



主要じょう乱解説図

## 2. 主要じょう乱の予想根拠と防災事項を含む解説上の留意点

- ① 1項①の低気圧は、世代交代しながら8日にはカムチャツカ半島付近に進む。1項④のトラフは、8日にかけて北日本を通過する。寒気を伴ったトラフの通過に伴い、北日本には -45°C前後、東日本には -39°C前後、西日本には -36°C前後の平年よりも10°C前後低い寒気が流入し、日本付近は8日にかけて強い冬型の気圧配置が続く。
- ② 7日は日本海西部に日本海寒帯気団収束帯 (JPCZ) が形成され、8日にかけて西日本日本海側を中心に指向する。東日本太平洋側～日本の東にもシーラインが形成され、8日朝までにシーライン上に低気圧が発生し、日本の東に進む。2項①のトラフや寒気の影響で、北日本～西日本の山地や山沿いだけでなく、平地でも大雪となる所がある。特にJPCZの影響を受ける西日本日本海側を中心に短い時間で積雪が増えるおそれがある。また普段、雪の少ない東日本太平洋側でもシーラインなどの影響で降雪量が多くなり、大雪となる所がある。西日本では8日は大雪や路面凍結による交通障害に警戒し、北日本～東日本では大雪に注意・警戒し、着雪、なだれに注意。
- ③ 2項①の寒気を伴ったトラフの影響で東日本～西日本では8日にかけて大気の状態が不安定となり西日本日本海側では非常に不安定となる所があるため落雷や突風、局地的に竜巻などの激しい突風に注意。強い冬型の気圧配置のため気圧の傾きが大きい状態が続き雪を伴った強い風や局地的に非常に強い風が吹いてしける所がある。全国的に風雪、強風、高波に注意・警戒、伊豆諸島では高波に警戒。

**3. 数値予報資料解釈上の留意点** 総観場はGSMを基本、量予想や降水分布はMSMやLFMも参考とする。北日本やJPCZ上にスケールの小さい低気圧が発生し、風や降雪が急に強まる可能性があることに留意。

**4. 防災関連事項【量的予報等】** ① 雨量(06時からの24時間)：多い所(100mm以上)はない。② 降雪量(06時からの24時間)：北陸70、中国60、北海道・近畿50、東北40cm。③ 波浪(明日まで)：伊豆諸島6、北海道・東北・中国・九州北部・九州南部・奄美・沖縄5、他広い範囲で4～3m。④ 高潮(明日まで)：注意報基準を超過する所はない。

**5. 全般気象情報発表の有無** 「大雪と雷及び突風に関する全般気象情報」を05時頃に発表予定。